

令和3年度日本規格協会標準化貢献賞

[標準化貢献賞]

(敬称略)

氏名・所属・役職	主な功績
<p>荒木 孝治 関西大学 特別契約教授</p>	<p>専門分野の品質管理、統計学に関する研究内容・知見を活かし、学識者として、長年当協会のセミナー、企業内研修において品質管理と標準化に関する人材育成に対し、多大な貢献をされている。</p> <p>また、当協会関西支部で開催している「品質管理と標準化セミナー」においては、1992年から約30年にわたり、講師として指導され、2018年度からは教務主任として同セミナーの質向上に寄与されている。</p> <p>特に、企業における品質管理の普及と促進に尽力され、関西を代表する中核企業での企業内研修においては、品質管理手法の講義・実践指導を1990年から担当し、人材育成に多大な貢献をされており、同社から厚い信頼を得ている。</p> <p>出版事業においては、当協会発行の『開発・設計における“Qの確保”』『開発・設計に必要な統計的品質管理』の編著に携わった。これら2冊はいずれも日経品質管理文献賞を受賞し、話題となった。</p>
<p>岡山 隆之 東京農工大学 名誉教授</p>	<p>紙パルプの専門家として、紙パルプ技術協会の試験規格委員会の委員長を2003年7月から2021年7月まで、18年にわたり務められた。その間、54のJIS原案作成に関わり、そのほとんどで原案作成委員会の委員長を務められた。</p> <p>試験規格委員会では、改正候補JISを抽出するために毎年、会員企業にアンケートを実施し、そこから作成した候補リストを委員会内で精査し、次年度に改正する規格を決定しているが、多忙な委員が多い為、ややもすると規格改正の作業に消極的になりがちな委員会の雰囲気委員長として強力にリードされた。</p> <p>そのリーダーシップの結果として、委員会は毎年、1~3件のJIS原案を作成するという実績を上げている。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
坂崎 洋雄 坂崎マネジメントコンサルタントオフィス 所長	<p>1996年1月に昭和電工株式会社からJSAへ出向し、1997年よりEMS、2005年よりOHSMSの主任審査員として長きに亘り活躍し、組織のEMS、OHSMSの取組み及び社会的な信頼性を向上させた。1998年4月にJSA職員から非常勤の主任審査員となって以降、組織へのマネジメントシステム構築・運用の理解を助ける活動を行い、それらの組織がJSAグループ事業と結びつくことで、JSAグループの発展に寄与している。</p> <p>労働安全衛生の審査技術検討会では複数年委員として審査要領の開発に努め、ISO 45001:2018（労働安全衛生マネジメントシステム—要求事項及び利用の手引）制定にあたっては、新たな規格要求事項への対応に尽力した。また審査登録事業部が開催する審査員向け研修の講師としてOHSMSの新審査員育成のための講義を複数回行うなど、様々な側面から認証事業を支えてきた。</p> <p>更に、OHSMSの判定委員会では、副委員長として信頼ある認証の決定を行い、JSAグループの認証の信頼性確保に貢献している。</p> <p>審査登録事業への貢献に加え、JSAグループのホームページ内ISO 45001特設ページにおいて、主任審査員の立場から全6回のインタビューに対応。ISO 45001の導入により労働災害は減らせることなどを説明し、同規格の国内広報活動にも貢献した。</p>
関 信博	<p>2012年11月からマネジメントシステム審査員評価登録スキーム委員会（現JRCA事業評価委員会）委員として、開催されたほぼ全ての委員会に出席し、当センターが開発・維持するマネジメントシステム（MS）審査員の認証スキームに対して多くの気付きのある意見、助言を行ってきた。</p> <p>同氏は、企業での品質、環境、労働安全衛生管理をはじめとする豊富な知見とMS審査員としての活動実績を有しており、市場のニーズや認定・認証制度、MS規格の内容等を踏まえた指摘や助言は、JRCAの新たな資格制度の創設（エキスパート審査員、内部監査員、労働安全衛生マネジメントシステム審査員制度等）や事業展開（環境マネジメントシステム審査員制度の統合等）、MS審査員資格制度の見直しを実施する上で非常に有益なものであり、JRCAの事業活動に大きく貢献した。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
高垣 俊壽 有限会社高垣経営技術 代表取締役	<p>企業コンサルタントとして標準化と品質管理に関する知見を活かし、長年に亘り当協会の公開セミナーや企業内研修において、品質管理と標準化に関する人材育成に対し多大な貢献をされている。</p> <p>特に、当協会で開催している「現場の管理と改善セミナー 試験・計測器管理コース」及び「方針管理セミナー 方針管理コース」においては、20年以上に亘り同コースの講義資料執筆と共に講師として出講され、これまで数多くの受講者に講義と指導を行い、当協会の当該セミナーに関する講師のキーマンとして活躍されている。</p> <p>また、2011年から中国国内で開催している「JIS 品質管理責任者セミナー 専修科コース」では、セミナー事務局業務を自身の中国合弁企業と当会での業務委託契約により、セミナー運営面（参加募集、当日運営までの全般業務）でフォローいただき、これまでに延べ17回、500名以上に上る修了者を輩出しており、当協会のグローバル研修事業に多大な貢献をされている。</p>
竹内 玲治	<p>1998年4月に富士電機株式会社からJSAへ出向し、1999年よりQMS、2004年よりEMS、2003年よりISMSの主任審査員として審査登録事業の発展期を支えた。また、難易度の高いこれらマネジメントシステムの複合審査サービスの提供に初期から現在に至るまで積極的に関わっている。複合審査サービスは現在、JSA-SOL 審査登録事業部の特徴の一つとなっている。</p> <p>2009年4月にJSA職員から非常勤の主任審査員となって以降、審査技術検討WGにおいては、QMS審査では主査として、複合審査では委員として複数年、審査手順を定めた要領書や審査員の知見を集めた指針の改訂と更新に取り組んだ。また、審査登録事業部が開催する審査員向け研修の講師を複数回務めるなど、認証事業の品質を高めるための取り組みを支えてきた。審査員としても、複合審査サービスの一つであるQMS/EMS/ISMSの3MS複合審査のリーダー審査員を務めるなど、組織の改善成果につながる審査サービスの提供に貢献している。</p> <p>更に、QMS、EMS、ISMSの判定副委員長としても信頼ある認証の決定を行い、JSAグループの認証の信頼性確保に貢献している。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>飛永 隆 飛永 ISO 研究所 所長</p>	<p>JSA-SOL 審査登録事業部の契約審査員として、ISO 9001 / ISO 14001 / ISO 45001 の主任審査員として活躍された。</p> <p>教育普及においては2004年度から福岡支部のISOセミナーの講師として、「ISO9000 セミナー / 内部品質監査員養成コース」から始まり「ISO9000 セミナー / 要求事項解釈コース」、「ISO14000 セミナー / 要求事項解釈コース」、「ISO14000 セミナー / 内部品質監査員養成コース」、「ISO45000 セミナー / 差分解説コース」「ISO45000 セミナー / 要求事項解釈コース」、などの公開講師及び、社内研修講師を務めるとともに、著者としてJSAから『ISO 9001:2015/ISO 14001:2015 統合マネジメントシステム構築ガイド』の出版に携わり、QMS、EMS、OHSMSに関する人材育成におおいに貢献した。</p>
<p>根本 敏則 敬愛大学 教授</p>	<p>2018年1月より、ISO/PC315（温度管理保冷配送サービス—輸送過程での積み替えを伴う保冷荷物の陸送）の国際議長として、日本提案のISO 23412（同上）の開発を主導し、3回の国際会議で効率的に短期間での規格作成を実現し、全参加メンバーの十分なコンセンサスの元、当初の日本の思惑通りの内容で、同規格を2020年5月に発行した。そのリーダーシップは海外のメンバーから大いに称賛された。</p> <p>更に、2021年1月に日本提案により設置されたISO/TC 315（コールドチェーン物流）の国際議長を務めるほか、設置のための国内環境の整備及び海外への説明等の準備にも尽力され、この分野における日本の地位の確立及び向上に大きく寄与している。ISO 23412を活用することで、ASEANをはじめとする新興国における物流のサービスレベル向上が見込まれ、フードロスや食品衛生といった社会問題の解決やSDGsの達成につながる。</p> <p>また、市場が成熟することで、質の高い日本の物流事業者の物流サービスが適切に評価されるようになり、日本物流企業の海外展開に向けた競争力強化及びビジネス拡大につながり、経済的波及効果は大きい。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
萩原 正弥 名古屋工業大学 名誉教授	<p>名古屋工業大学にてねじ等の研究に携わる傍ら、1983年から JIS 原案作成委員会に参画し、1989年から6年間日本工業標準調査会機械要素部会の委員を務めた。また、1992年から ISO/TC 2 (ボルト・ナットおよび付属品)/SC 1 (機械的性質) 国内委員会幹事、2007年から ISO/TC 2 対策合同委員会委員と同時に ISO/TC 2 国内委員会副委員長、さらに2009年からは ISO/TC 2 国内委員会委員長となり、2015年からは ISO/TC 1 (ねじ) 国内委員会委員長を兼務している。</p> <p>締結用部品関係の JIS では、10 件以上の JIS 原案作成委員会に参画し、その内、約半数は委員長として委員会をまとめてきた。直近では、JIS B 1124 (タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ) や JIS B 1126 (つば付き六角タッピンねじ) (いずれも本年度、公示予定) で委員長を務め、ISO に規定されているねじに統一すべく、日本独自の規格のねじを廃止する方向で調整し、将来的には ISO と一致した規格にできるよう、その道筋をつけている。現在も JIS 原案作成員会の委員長を引き受けるなど、精力的に活動されており、35 年以上の長きに亘って標準化に貢献している。</p>
蓮池 俊治 日本ガス機器検査協会 委託審査員	<p>広島ガス株式会社所属時に中国地区品質経営協会に運営委員として参加し、2007 年度には事務局長として広島県内企業における品質管理の普及に尽力された。</p> <p>教育普及においては 2008 年度には広島支部主催の「見える化セミナー」のテキスト編集委員として参加し、セミナー立ち上げに貢献された。</p> <p>また、2013 年度から広島支部主催の「ISO9000 セミナー／要求事項解釈コース」、「ISO9000 セミナー／内部品質監査員養成コース」、「ISO14000 セミナー／要求事項解釈コース」、「ISO14000 セミナー／内部品質監査員養成コース」、「品質管理セミナー／入門コース」、「品質管理セミナー／Excel を利用した QC 七つ道具活用コース」の講師を務め、ISO9001、ISO14001 及び品質管理に関する人材育成におおいに貢献した。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
村山 一生 アイソバーコンサルタント 代表	<p>QMS・EMS・ISMS 審査において多くの審査実績があり、単独 MS の審査だけでなく、高い力量が求められる複合 MS 審査も多く担当し、審査の質向上に大きく寄与している。</p> <p>同審査経験を活かし、札幌支部に在籍の時代より 10 年以上に亘り、北海道・関東地区を中心に「ISO14001 要求事項解釈コース」、「内部環境監査員養成コース」の公開コース及び企業内研修を多くご担当いただいている。</p> <p>特に企業内研修においては、講師が不足する ISMS の分野において重責を担っていただき、事務局と同行し多くの組織へ営業活動をいただいている。</p> <p>近年では、「ISO27001 内部監査員養成コース」、「情報セキュリティリスクアセスメント実践コース」、「ISMS/PMS 統合マネジメントシステム構築のポイント解説コース」の企画立案及び教材開発に主査としてご尽力いただくなど、当協会の研修事業に多大な貢献をしている。</p>

[標準化貢献特別賞]

(敬称略)

団体・企業名	主な功績
<p>公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会(NACS)</p>	<p>同協会は、消費生活に関するわが国最大の専門家団体として、消費者利益と企業活動の調和を図り、社会に貢献する活動を積極的に推進している。</p> <p>標準化に関連する貢献としては、2001 年度以来継続している、消費者セミナー／標準化セミナーにおいて、消費者の JIS 開発審議への参加の度合いをさらに高める、標準化に関する普及啓発活動を継続的に実施し、全国各地の消費者層に対し、JIS 及び標準化の普及を図るとともに標準化のタネを探す活動を通じて、ISO/ COPOLCO（消費者政策委員会）に対して積極的な標準化提言を行えるリーダークラス人材育成に大きく貢献している。</p> <p>さらに、幼児の安全性・ライター的安全性など消費者保護に直結する重要な JIS 開発に多くの委員を派遣し産業標準推進への功績は大である。</p> <p>また、昨年からの新型コロナ禍で業務への支障が増えている中、リモート開催・WEB 会議などにも積極的な取り組みによって効果を挙げている。</p>
<p>有限会社アート規格</p>	<p>同社は 30 年以上の長きに亘り、英訳 JIS の版下作成に尽力している。JIS の様式、用語、構成、図表の作成などに精通しており、単なる版下の作成だけでなく、疑義がある場合には和文 JIS や関連国際規格等との照合などきめ細やかな対応をいただくことで、英訳 JIS の品質確保、規格利用者の利便性向上に貢献している。納品や修正対応についても迅速かつ柔軟な対応であり、当協会が顧客ニーズや市場の注目度、関心度が高い英訳 JIS を安定して年間約 150 件、時宜を得て発行することに非常に大きく貢献している。また、JIS の翻訳商品を国内外に広く普及することを通じて、JIS の認知度向上にも寄与している。</p>

[標準化奨励賞]

(敬称略)

氏名・所属・役職	主な功績
<p>大村 宏之 一般社団法人日本食品機械工業会 事業部 部長</p>	<p>一般社団法人日本食品機械工業会事業部の部長として、食品機械の安全及び衛生に関する設計要求について、全体の核となる通則 2 規格及び機械の種類（製パン、製菓、肉類加工、水産加工、製粉、製めん、飲料加工、精米麦）ごとの 8 規格の合計 10 規格からなるシリーズ規格を、約 10 年間のうちに計画的に改正し、食品加工機械の安全規格を機械安全規格の体系の下にタイプ C 規格（製品安全規格）として位置付けた。</p> <p>これらの規格は全て対応国際規格をもたない JIS であるが、ISO/TC 199（機械類の安全性）の機械安全規格の体系の下に位置付けることにより、将来的な国際提案につながる大きな一歩となったと言える。</p> <p>また、同工業会は 2019 年 11 月に設立された ISO/TC 326（食品との使用を意図する機械）の国内審議団体事務局となっており、今後の国際標準化活動における貢献の中で、JIS へのフィードバックについても期待される。</p>
<p>島田 宏美 本田技研工業株式会社 デジタル改革統括部 DPM プロセス課 エキスパートエンジニア</p>	<p>2011 年度より 10 年にわたり、国費事業である 3D モデルの基本図示及び基本情報 (DTPD、Digital Technical Product Documentation) に関する JIS 開発に JIS 原案作成委員会委員として参画、WG の主査として実証データの収集や JIS 原案の作成の中心的役割を担った。</p> <p>ご所属の自動車業界ではサプライヤーとの情報伝達の効率化、制度向上のために、3D モデルでの情報伝達が始まっていたことから、それらの知見を基に、一般社団法人日本自動車工業会にて自動車業界の意見を集約し、また他業界団体の意見も取りまとめ、JIS B 0060（デジタル製品技術文書情報）規格群、全 10 部の制定に尽力された。</p> <p>これら規格群が確立したことで、産業界における 3D-CAD を利用したものづくり（開発・生産準備プロセスである設計工程及び生産設計・解析の一部の工程）の従来以上の高効率化及び品質保証に大いに貢献している。また、ISO/TC 10（製品技術文書情報）国内委員会委員として、JIS 制定後は、これら JIS の内容を日本発で国際標準に反映する活動も積極的に推進し、日本の産業競争力強化に寄与している。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>高瀬 久 株式会社 SUBARU 航空宇宙カンパニー 品質保証部 品質保証課</p>	<p>2011年6月から外部評価委員として JRCA が実施する航空宇宙産業向け審査員（AS 審査員）の資格評価に携わり、的確な評価を行ってきた。AS 審査員制度の資格評価を行うためには、航空宇宙産業特有の高度な専門性が求められるばかりでなく、航空宇宙審査登録管理委員会（JRMC）の追認による厳密性を求められるなど、高いハードルを有するものであるが、同氏は企業での豊富な実務経験と知見を通して正確な評価を行い、AS 審査員制度の円滑な運営に大きく貢献した。</p> <p>また、技術専門家として AS 審査員研修コースの承認審査に立ち会い、高度な専門性に基づく研修内容の適切性の評価、審査員に対して適切な助言、バックアップを行ったことにより、JRCA の研修提供者承認機関（TPAB）としての活動に大きく貢献した。</p>
<p>深田 博史 株式会社エフ・マネジメント 代表取締役</p>	<p>同氏は、ISO 9001/ISO 14001 の 2015 年改訂の機を捉え、自身の豊富な経験・知見に基づき、マネジメントシステム規格に関する新たな入門書籍『見るみる ISO・JIS シリーズ』の企画・執筆（寺田和正氏との共同）を提案し、2016年5月の『見るみる ISO 9001—イラストとワークブックで要点を理解』、『見るみる ISO 14001—イラストとワークブックで要点を理解』の同時発刊を皮切りに、以降も時宜を得た新ラインナップ『JIS Q 15001・プライバシーマーク—イラストとワークブックで個人情報保護マネジメントシステムの要点を理解』（2018年）、『見るみる 食品安全・HACCP・FSSC 22000—イラストとワークブックで要点を理解』（2020年）、『見るみる BCP・事業継続マネジメント・ISO 22301—イラストとワークブックで事業継続計画の策定、運用、復旧、改善の要点を理解』（2021年）の発刊に尽力された。同シリーズは、現場教育の重要性に鑑みわかりやすさを徹底的に追求した新機軸であり、発刊後多くのマネジメントシステム認証取得組織等の学習・社内研修等で活用され好評を博している。</p> <p>同氏の、これまでの環境管理規格審議委員会環境監査小委員会（ISO/TC 207/SC 2）委員（元）としての標準化活動や、こうした書籍を通じたマネジメントシステム規格の普及ならびにマネジメントシステム構築・運用の支援は、日本規格協会グループの標準化普及・推進事業に大いに貢献するものである。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
<p>山本 瑞哉 ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社 品質保証部</p>	<p>関東地区において「品質管理と標準化セミナー」、「JIS品質管理責任者セミナー 専修科コース」、「品質管理実践コース」など、長年に亘り、幅広く QC 分野の講義・改善指導・宿題添削をご担当いただいている。</p> <p>「品質管理と標準化セミナー」では、幹事を長年務めていただき、WGの主査として、基幹セミナーコンテンツの見直しや教材開発に精力的に着手し、教務主任及び幹事、全国講師への橋渡しの役割を担っていただいている。</p> <p>「品質管理実践コース」のリニューアルにおいては、品質保証の実務経験を生かして、テキストを執筆いただき、現在も継続的改善活動に尽力いただいている。</p> <p>また、QMS 主任審査員として、管理技術の知見を生かした高いパフォーマンスを発揮しており、当協会の研修事業に多大な貢献をいただいている。</p>
<p>山来 寧志 大阪電気通信大学 講師</p>	<p>「品質管理と標準化セミナー」をはじめ、関西支部主催セミナーにおいて多岐にわたり講師を担当され、関西地区における品質管理の普及・啓蒙及び人材育成に多大な貢献をされている。</p> <p>セミナー資料は常に“分かりやすく”を意識して作成されるなど、受講者目線に立った指導は、アンケート結果の良さにも見受けられるように、受講者の理解度は非常に高い。</p> <p>また、Zoom を使用した講義においては受講生への積極的な問いかけを通じ、オンライン参加者に対してのアプローチはセミナー成功の大きな要素となった。</p> <p>今後も研修事業を通じた品質管理と標準化の普及・啓蒙において、さらなる活躍が期待される。</p>

氏名・所属・役職	主な功績
渡部 友一郎 Airbnb Japan 株式会社 日本法務本部長 弁護士	<p>ISO 31022:2020(リスクマネジメント—リーガルリスクマネジメントのためのガイドライン) に関して、当協会にその重要性を喚起いただいた。その後、日本語対訳版の作成及び研修の実施にご尽力いただき、日本経済新聞社、BUSINESS LAWYERS 対談企画・実施、論文誌等に、自らもアピールを続けてくださった。外資系企業に勤務されているが、日本企業の弱みを、ISO 31022 を利用して克服できるという思いをもち、その後も、法務分野の雑誌等で ISO 31022 をご紹介いただいている。</p> <p>ISO 31022 (英語版)、対訳版ともに売れ行きは順調であり、2020年8月に実施した研修には100名以上が参加し、当協会の顧客層以外の新規の顧客層(法務部門)を多く獲得することができた。</p> <p>今後も、対応 JIS の開発、ISO 31022 を利用した研修や研究会等での協働を期待している。</p>